坂城町埋蔵文化財調査報告書第８集

KAMIGOMYOJYORISUIDENSHI

上五明条里水田址

―長野県埴科郡坂城町同和対策事業農業振興事業に係る緊急発掘調査報告書―

1996. 3
坂　城　町
坂城町教育委員会

KAMIGOMYOJYORISUIDENSHI

上五明条里水田址

—長野県埴科郡坂城町同和対策事業農業振興事業に係る緊急発掘調査報告書—

1996. 3

坂　城　町

坂城町教育委員会

序

坂城町教育委員会教育長　西沢民雄

同和対策事業農業振興事業に伴う「上五明条里水田址」の調査は、平成６年11月15日～11月29日に実施されました。調査面積は、約320㎡であります。

調査の結果、仁和４年（888年）に起きたとされる千曲川の大洪水の氾濫砂層に、埋没した水田址を検出しました。調査面積が狭いこともあり、はっきりとした水田区画は不明であるが、８区画存在していたものと思われます。

本調査にあたって、調査指導者の森嶋稔先生には、ご熱心なご指導をいただき感謝申し上げます。また、長野県教育委員会文化課、調査の関係各位はじめ快く作業に協力してくださった皆様方に心から御礼申し上げ、序にかえる次第であります。

例　言

1　本書は、長野県埴科郡坂城町上平における同和対策事業農業振興事業に伴う、発掘調査の報告書である。

2　発掘調査は、坂城町農林課より依頼を受け、坂城町教育委員会が平成６年11月15日～11月29日まで実施した。整理期間は、平成８年１月８日～１月18日である。

3　本書の執筆・編集は、助川が行った。

6　本書及び調査に関する資料は、坂城町教育委員会の責任下において保管されている。

目　次

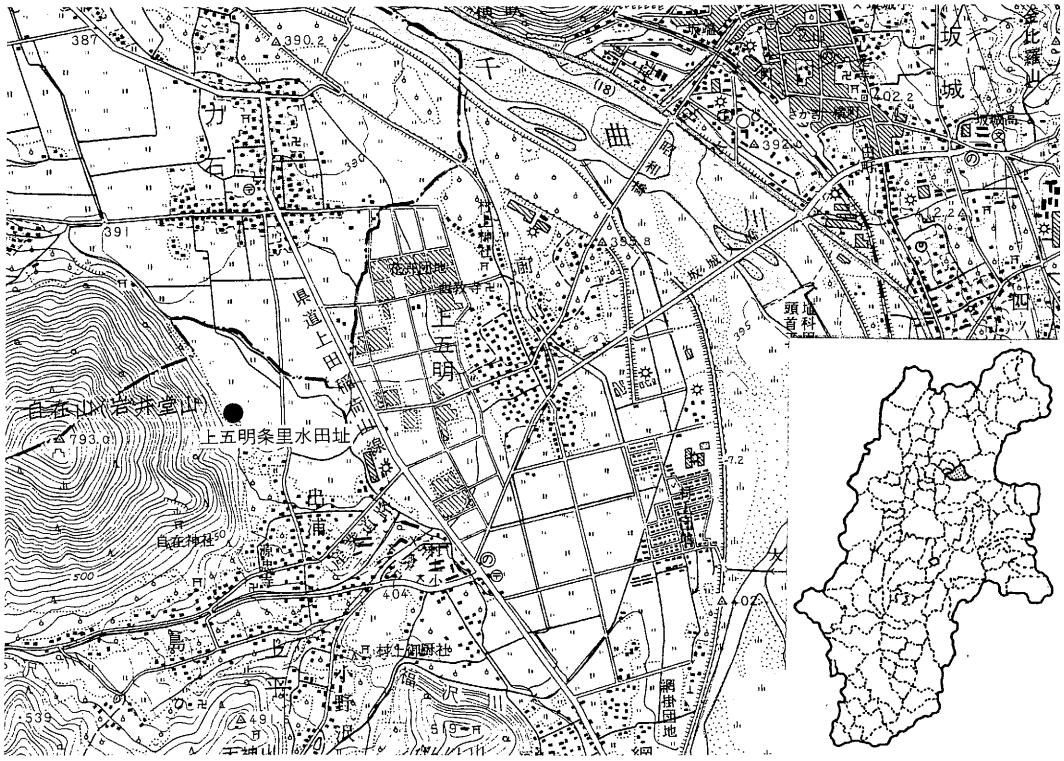
序
例言
第Ⅰ章　発掘調査の経緯 …… 1
　第１節　発掘調査に至る動機と経緯 …… 1
　第２節　調査の構成 …… 2
　第３節　調査日誌 …… 3
第Ⅱ章　遺跡の立地と環境 …… 3
第Ⅲ章　調査の概要 …… 5
　第１節　調査の方法 …… 5
　第２節　基本層序 …… 5
第Ⅳ章　調査の結果 …… 7
第Ⅴ章　総括 …… 12

第Ⅰ章　発掘調査の経緯

第１節　発掘調査に至る動機と経緯

上五明条里水田址は、坂城町上五明、上平に所在し、標高394m前後を測る千曲川の氾濫源によって形成された沖積地であり、上山田町との市町村界に位置する。仁和４（888）年に起きたとされる大洪水の被害を受け、平安時代前半の水田層が一過性の土砂に被覆された状態で検出されると考えられる条里水田址で、以後近世までの条里遺跡と考えられている。

今回、坂城町農林課が行う同和対策事業農業振興事業に係る農道新設事業が計画され、遺跡の破壊が余儀なくされることとなり、長野県教育委員会文化課、坂城町農林課、地元研究者森嶋稔氏、坂城町教育委員会社会教育課の４者による保護協議の結果、開発対象地の遺跡の状況確認のため、平成６年10月に試掘調査を実施することとなった。先行した試掘調査によって、平安時代の水田面が確認されたが、調査範囲が狭く危険な調査となる可能性もあったため、直接発掘調査に切り変え、条里水田址の断面観察に主眼をおくことを目的にした発掘調査を実施した。



第Ⅰ図　上五明条里水田址位置図（１：25000）

第２節　調査の構成

平成６年度発掘調査体制

調査指導者　森嶋　　稔（日本考古学協会員、長野県考古学会長、千曲川水系古代文化研究所主幹）

担当者　　助川　朋広（坂城町教育委員会学芸員）

調査補助員　中村久子、萩野れい子、宮尾美代子（以上、町臨時職員）

調査協力者　青木清、池田輝昭、石井和美、臼井かね、小林巴、島谷久、竹鼻茂、望月武志、矢島岩太郎、山辺ケサエ、山辺春男（以上更埴地域シルバー人材センター）

（事務局）

教育長　　西沢　民雄

社会教育課長　塩野入　猛

文化財係長　　山崎　政弘

文化財係　　助川　朋広、小平光一、青木卓（嘱託職員）、瀬在孝子、天田澄子、塩野入早苗、春原かずい、高木和子、中村久子、萩野れい子、宮尾美代子（以上、町臨時職員）

平成７年度　整理調査体制

調査指導者　　森嶋　稔

調査担当者　　助川朋広

調査補助員　　中村久子、萩野れい子、宮尾美代子

（事務局）

教育長　　西沢　民雄

社会教育課長　塩野入　猛

文化財係長　　小宮山久春

文化財係　　助川　朋広、小平光一、青木卓（嘱託職員）、瀬在孝子、天田澄子、塩野入早苗、春原かずい、高木和子、中村久子、萩野れい子、宮尾美代子（以上、町臨時職員）

第3節　調査日誌

試掘調査

10月19日　バックフォーによるトレンチ掘削開始。近世水田址より寛永通宝検出。平安時代水田址が砂層に被覆された状態で検出される。

10月20日　平安時代水田層の畦畔を検出。

本調査

11月15日　本日より、協力者を加え本調査開始。トレンチ壁面の精査及び、一部水田面の検出を行う。

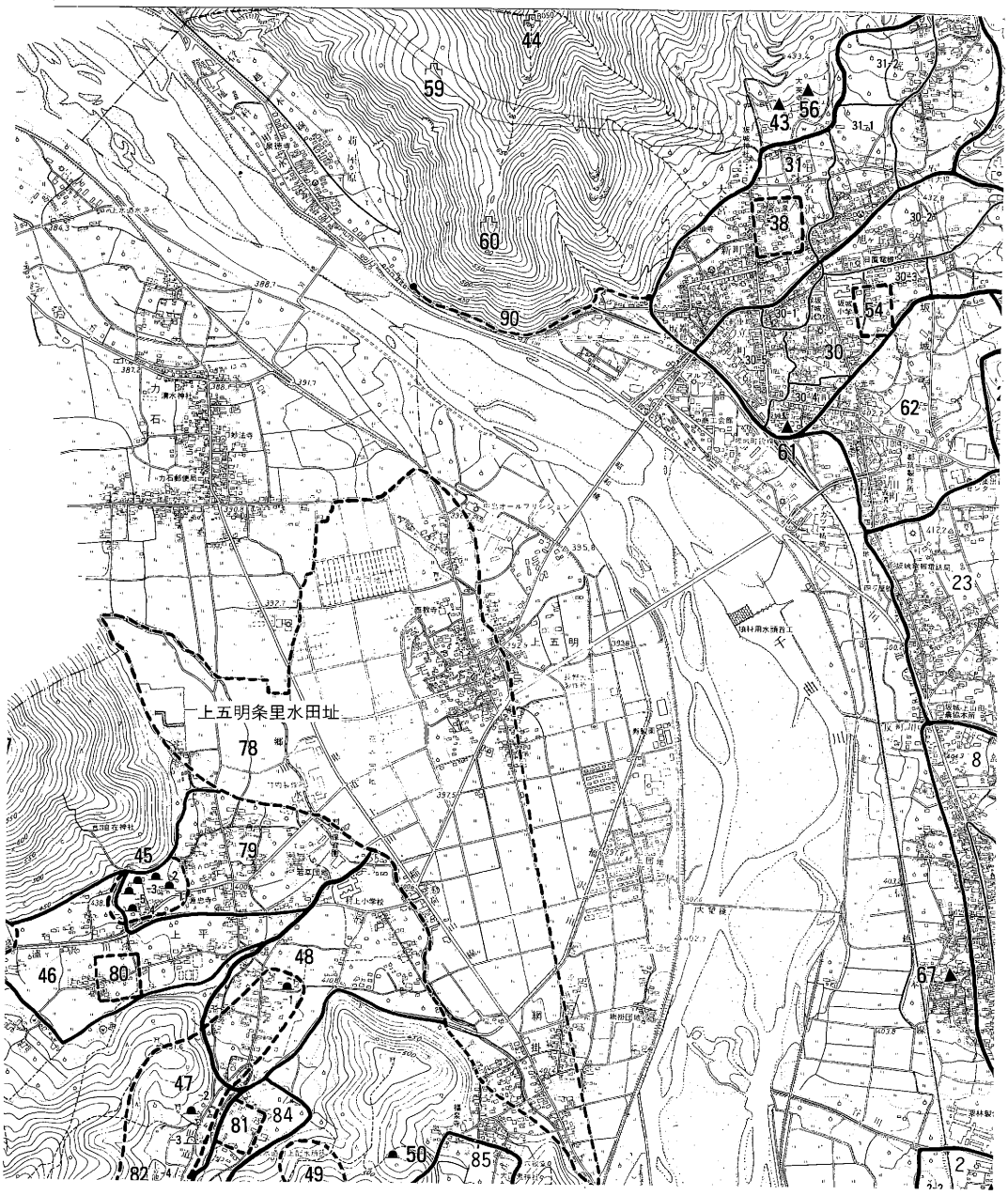
11月16日　水田面の検出継続し、本日で掘り下げを中止。トレンチ内にてセクション・平面図の実測開始。

11月29日　本日をもって、現地調査終了。

第II章　遺跡の立地と環境

坂城町は、北信濃の善光寺平を構成する更埴地方の最南端に位置し、県の東部から北流する千曲川によって右岸地域と左岸地域とに分断されている。この千曲川は、坂城広谷と呼ばれる沖積地を形成し、町の中央部を流れ、戸倉、上山田の沖積地へと続いて行くのである。千曲川右岸には、太郎山、鏡台山などの山稜が、屏風のように連なり、中小河川によって複合扇状地が形成され、左岸地域は大林山を主峰とする山稜が続いている。上五明条里水田址は、坂城町の千曲川左岸である上五明、上平に所在する沖積地の、古くは千曲川の回流内部の自然堤防より、西に位置するものと考えられ、平安時代から近世にかけての水田址である。北側には上山田町との境界があり、上山田町には力石条里遺構群が存在し、一帯が古代の水田址、弥生時代の集落址とも考えられている。現在の集落が存在する地域は、微高地状を呈し、自然堤防と思われ、遺跡の立地している面は、後背湿地として、条里的地割りが行われていたと思われるが、一部を除き圃場整備によって失われてしまった所が多い。村上地区の古代においては、村上郷に属し、隣接する上山田町を含んでいたと考えられる。千曲川右岸地域が当時坂城郷に属していたこととはいささか様相が異なっているのである。この村上地区は中世に村上御廚となり、当時の経緯は判然としないのではあるが、伊勢神宮所有の神領となっていた。

古墳時代後期の古墳としては、御廚社の裏に所在する千曲川流域最大の石室を誇る御廚社古墳もあり、中世では村上氏の居館跡が所在していたなど様々な課題を提示し、歴史的には当町の中でも未知な要素の多い地域である。



2金井西遺跡群（縄～平）　2－2社宮神遺跡（縄～平）　8中之条遺跡群（縄～平）　23　四ツ屋遺跡群（縄～平）　30込山遺跡群（縄～平）　30－1込山A遺跡（縄～平）　30－2込山B遺跡（縄～平）　30－3込山C遺跡（縄～平）　30－4込山D遺跡（縄～平）　30－5込山E遺跡（縄～平）　31日名沢遺跡群（弥～平）　31－1日名沢遺跡（弥～平）　31－2丸山遺跡（弥～平）　38村上氏館跡（中世）　43栗田窯跡（奈良）　44葛尾城跡（中世）　45出浦沢古墳群（古墳後期）　45－1出浦支群1号墳（古墳後期）　46島遺跡（弥～平）　47福沢古墳群（古墳後期）　47－1小野沢支群1号墳（古墳後期）　47－2小野沢支群2号墳（古墳後期）　47－3小野沢支群3号墳（古墳後期）　47－4小野沢支群4号墳（古墳後期）　48小野沢遺跡（弥～平）　49福沢古墳群武堂支群（古墳後期）　50福泉寺裏古墳（古墳後期）　54込山廃寺跡（平安）　56栗田小鍛治跡（中世）　59葛尾城根小尾跡（中世）　60姫城跡（中世）　61坂木代官所跡（近世）　62田町遺跡群（古～平）　67中之条代官所跡（近世）　**78上五明条里水田址（平～近）**　79出浦遺跡（縄～平）　80村上氏館跡（中世）　81福沢氏居館跡（近世）　82小野沢窯跡（奈～平）　84荒宿遺跡（縄～平）　85網掛原遺跡（縄～平）　90横吹北国街道跡（近世）

第2図　周辺遺跡分布図

第Ⅲ章　調査の概要

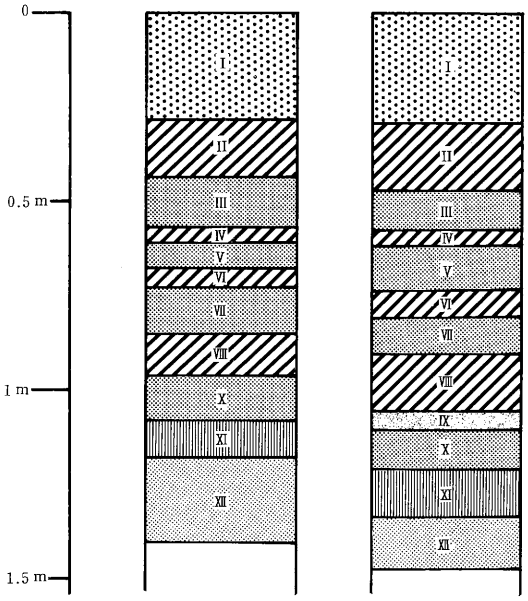
第１節　調査の方法

本遺跡の調査には、調査区の遺構・遺物の正確な位置を記録でき、なお周辺に存在する遺構・遺物の調査にも整合できるように、Ⅷ系国家座標の座標軸を基にグリッドを組んだ。グリッドは、200m×200mの大グリッドを設け区画を行った。その中を40m×40mに25等分した中グリッドを設定（第４図）し、北東端より、A・B・C・・・Y区とアルファベットの大文字で命名した。本調査区では、O・S・T・X区が相当する。さらに、その中グリッドを４m×４mのグリッドで100区画に分割し、南北列を北から算用数字で１・２・３・・・10、東西列を東から五十音順にあ・い・う・・・ことし、各グリッドの北東交点を小グリッドとした。遺構外出土遺物の取扱い、遺構の検出位置は、この小グリッド単位で行った。

第２節　基本層序

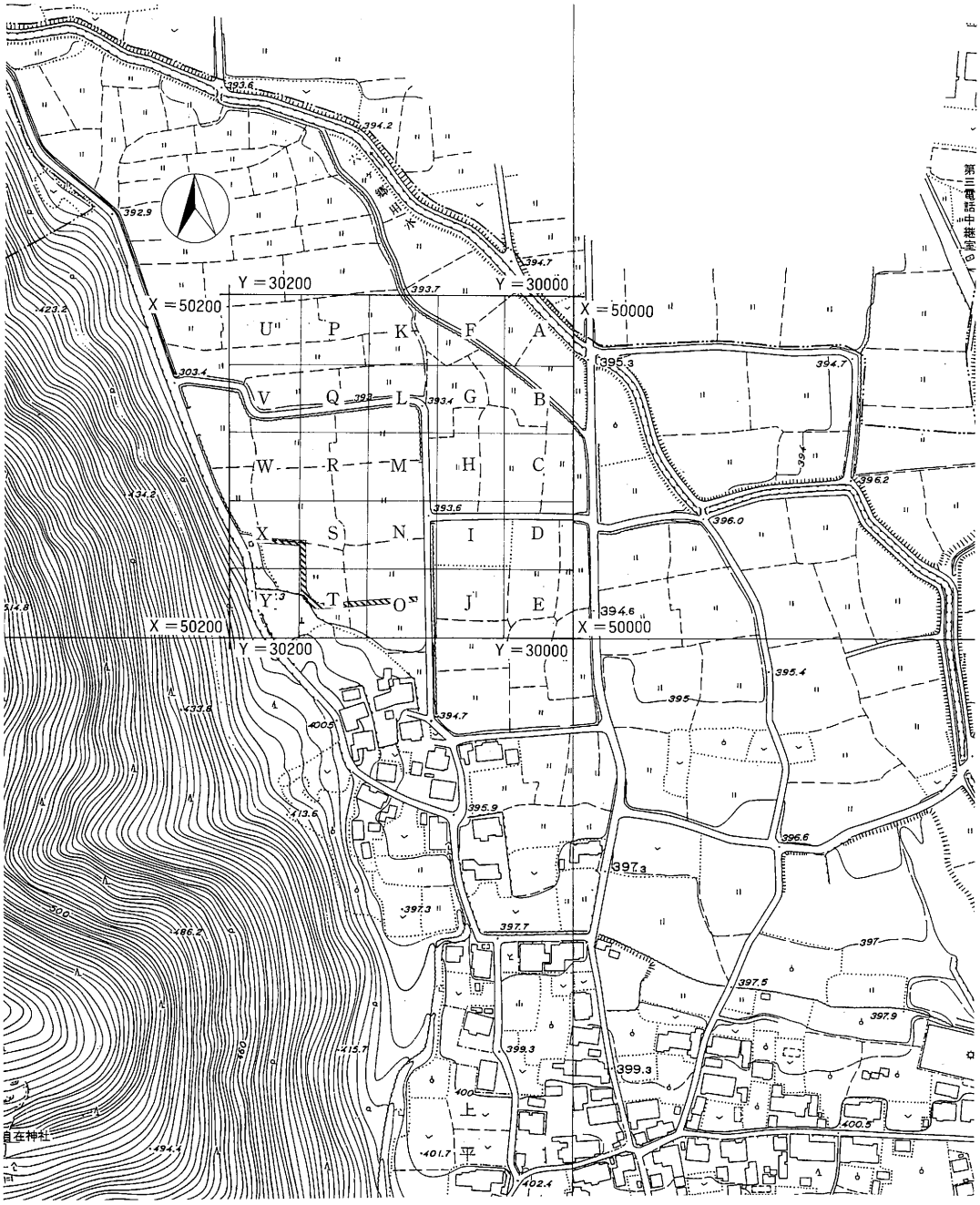
上五明条里水田址の調査区内では、Ⅰ層～XⅡ層に分けられ、水田層と水田溶脱層が互層となって、検出された。現代水田面を加えると合計５面の水田面が確認されている。Ⅴ層は寛永通宝が検出されたことより判明した近世に位置づけられる水田址、Ⅶ層は中世に位置づけられると思われる水田層、X層は平安時代前半の仁和４（888）年に起きたとされる、大洪水による沈澱砂層（IX層）に被覆された状態で検出された水田址で、部分的に調査区内に見られない所も存在し、０～20cmの厚さを測る。また、その下層には、XⅡ層が存在し、平安時代以前の水田面とも考えられる。

水田址という事もあって、出土遺物がほとんどなく、時期決定は難しい状況であった。



Ⅰ層　現代水田床土
Ⅱ層　にぶい黄橙粘土層（溶脱層）
Ⅲ層　黄灰色粘土層　（水田層）
Ⅳ層　明黄褐色粘質土　（溶脱層）
Ⅴ層　黄灰色粘土層　（近世水田層）
Ⅵ層　にぶい黄色粘質土（溶脱層）
Ⅶ層　褐灰色粘質土　（中世水田層）
Ⅷ層　にぶい黄色粘質土（溶脱層）
Ⅸ層　褐色砂層　（氾濫砂層）
Ⅹ層　灰白色粘質土　（平安水田層）
Ⅺ層　褐色粘質土
Ⅻ層　灰黄褐色粘質土　（水田層？）

第３図　基本土層模式図



第４図　調査区設定図（１：4000）

第Ⅳ章　調査の結果

本調査区内から検出された遺構は水田址で、断面観察により水田址の状況を把握する事が主な目的であった。幅約3.5m、長さ約140mという狭い調査区内において、調査区の断面からは、平安時代前期の水田址が８面検出された。千曲川の通過する善光寺平の埋没水田址の状況は、平安時代前期、仁和４（888）年に起きたとされる大洪水による被害を受け、一過性の砂層に被覆される共通点があり、この褐色砂層に被覆された水田址を平安時代前期の水田址と考えた。この水田址のあり方は、善光寺平一帯に共通していて、更級・埴科・水内・高井郡に見られるという。

調査では、この水田址を一部ではあるが、平面的な調査を実施（Ａ～Ｅ区）し、畦畔の状況などを確認した。

１）第１号水田址

調査区の東端に検出された、第１号畦畔の東側に所在するであろう水田址である。第１号畦畔は幅約10㎝、水田面からの比高差約10㎝である。

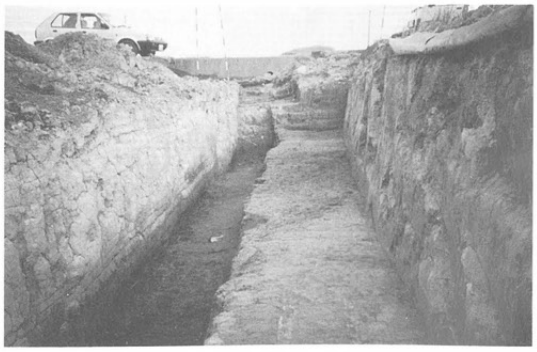
２）第２号水田址

第２号畦畔と第３号畦畔で区画される水田址である。水田址の規模としては、非常に小さいものと思われ、東西約6.5mを測る狭い水田址と思われる。水田面の状況は概ね平坦で、後述する水田址すべてに共通するが、足跡状の窪みが看取された。第２号畦畔は幅約30㎝、比高差約16㎝である。

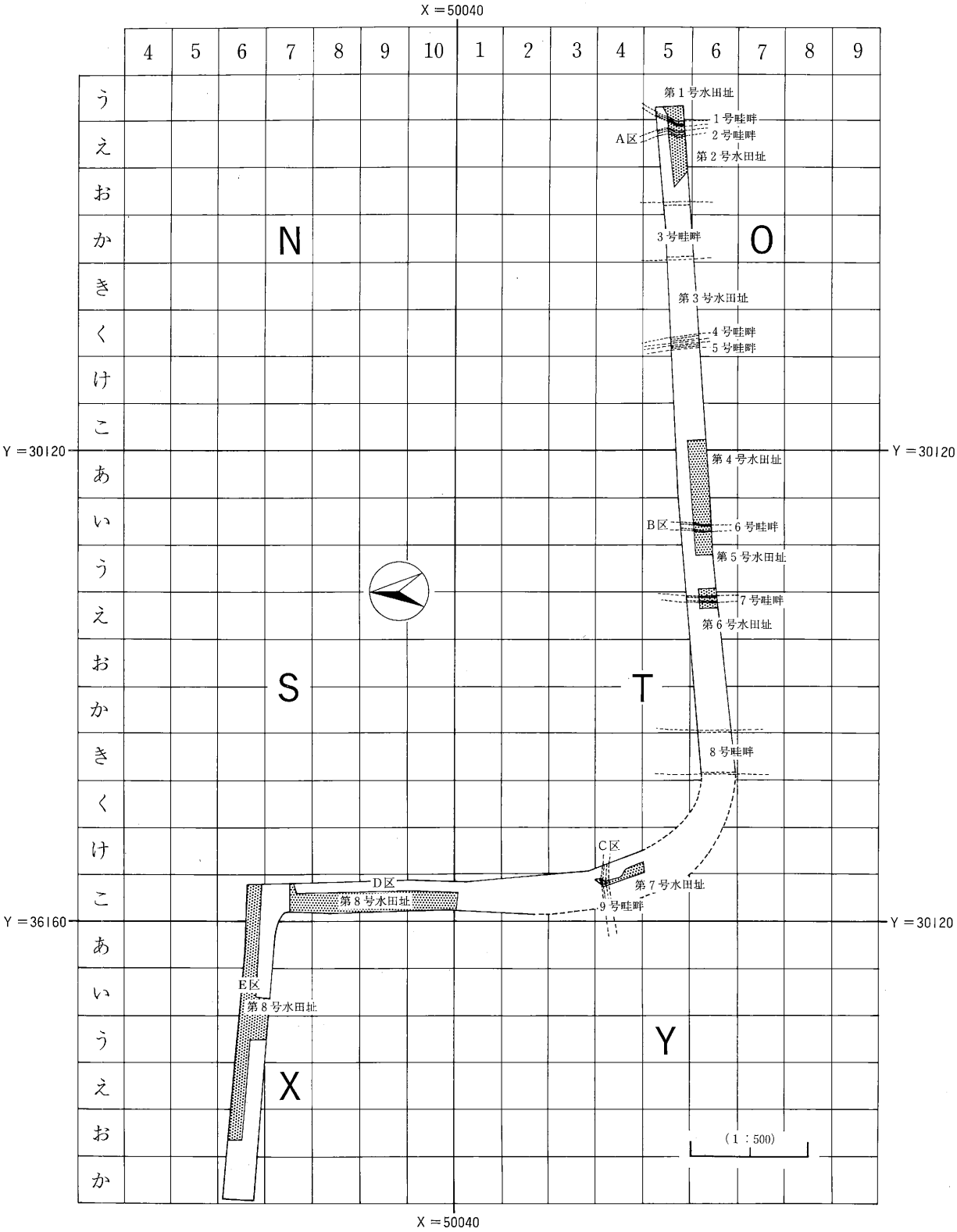
調査近景東より

３）第３号水田址

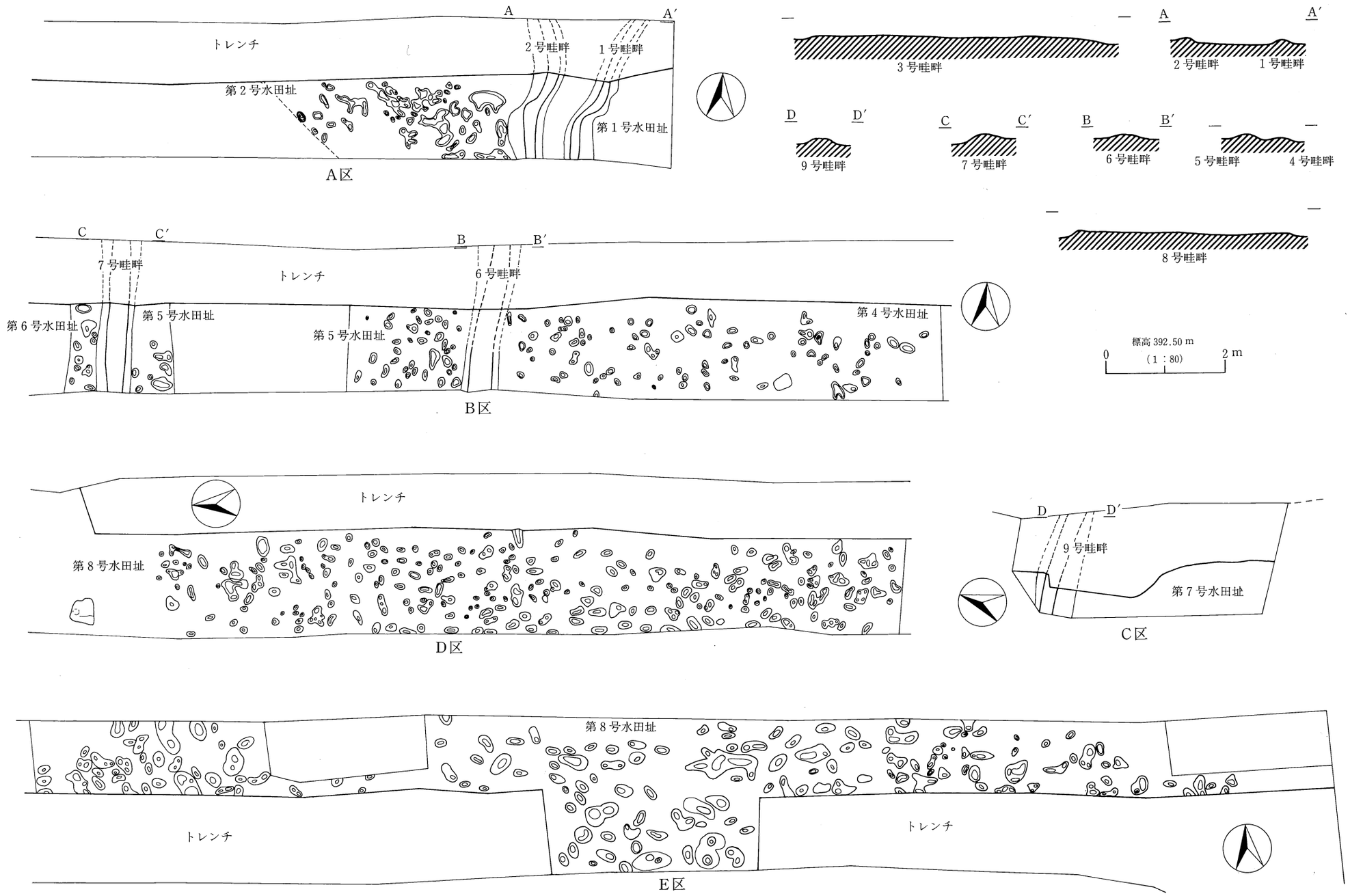
第３号畦畔と第４号畦畔で区画される水田址である。第３号畦畔は大型の畦畔で、幅約4.5m、比高差は約10㎝、第４号畦畔は幅約20㎝、比高差は約10㎝である。第２号水田址同様東西に約6.5mを測る狭い水田址と思われる。水田面の状況は概ね平坦で、後述する第４号水田址中央付近まで、氾濫砂層の被覆



Ａ区２号水田址西より


X＝50040
4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9
う え お か き く け こ あ い う え お か き く け こ あ い う え お か
Y＝30120
Y＝36160
第1号水田址
1号畦畔
2号畦畔
A区
第2号水田址
3号畦畔
第3号水田址
4号畦畔
5号畦畔
第4号水田址
B区
6号畦畔
第5号水田址
7号畦畔
第6号水田址
8号畦畔
C区
第7号水田址
9号畦畔
D区
第8号水田址
E区
第8号水田址
N
O
S
T
X
Y
(1：500)

第5図　遺構配置図


A
A′
トレンチ
2号畦畔
1号畦畔
第2号水田址
第1号水田址
A区
3号畦畔
2号畦畔
1号畦畔
D
D′
C
C′
B
B′
9号畦畔
7号畦畔
6号畦畔
5号畦畔
4号畦畔
8号畦畔
7号畦畔
6号畦畔
第6号水田址
第5号水田址
第5号水田址
第4号水田址
標高 392.50 m
0
(1：80)
2 m
B区
トレンチ
第8号水田址
D区
9号畦畔
第7号水田址
C区
第8号水田址
トレンチ
トレンチ
E区

第6図　水田址実測図

がない状態である。

4）第４号水田址

第５号畦畔と第６号畦畔で区画される水田址である。第５号畦畔は幅約40㎝、比高差約８㎝、第６号畦畔は幅約30㎝、比高差約４㎝を測る。水田面の状況は概ね平坦で、東西幅は約14.9mと思われる。

B区６号畦畔より北西より

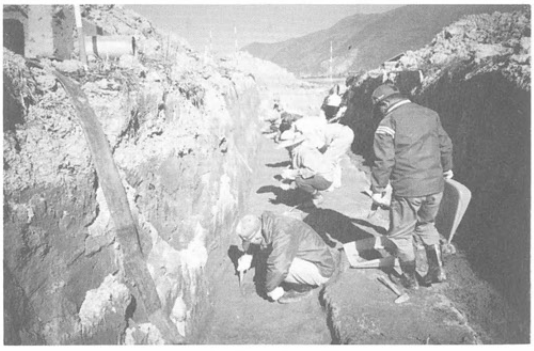
5）第５号水田址

第６号畦畔と第７号畦畔で、区画される水田址である。第７号畦畔は幅約30㎝、比高差10㎝を測る。水田面の状況は概ね平坦で、東西幅約5.6mの狭い水田址である。

C区８号水田北南より

6）第６号水田址

第７号畦畔と第８号畦畔で、区画される水田址である。第８号畦畔は幅約3.5m、比高差約２㎝の大型の畦畔で、畦畔に沿い北走する水口を有するものと思われる。水田面の状況は概ね平坦ではあるが、西側に徐々に下がる傾向が看取され、東西幅約10.4mである。



作業スナップ

7）第７号水田址

第８号畦畔と第９号畦畔で、区画される水田址である。第９号畦畔は幅約25㎝、比高差約10㎝の東西方向の畦畔である。水田面の状況は概ね平坦である。

8）第８号水田址

第９号畦畔から北側に所在する水田址ではあるが、規模は不明である。水田面の状況は、概ね平坦ではあるが、南側が徐々に下がる傾向が看取される。

第Ⅴ章　総　　括

調査によって検出された遺構は、幅約3.5m、長さ約140mという調査区内ではあったが、平安時代～現代に至るまでの水田址が合計５層確認され、平安時代前半に位置するであろう埋没水田址が８区画存在する可能性を明らかにできたと思われる。水田址の規模等詳細は不明であるが、律令制度によって推進された条里的な地割りが、規則性をもちながらもある面では、不規則であったことが窺い知れたように思われる。

調査区は上五明条里水田址の中でも自在山の山脚部に近く、条里的地割りの最西端に所在するためか、規則的に配置しても端部では地割りが不規則になることも考えられる。調査面積が狭かったこともあり、不確実ではあるが幅約5.6mと思われる、小さい水田址２面の検出がそれを示唆しているのかもしれない。また、大畦畔のあり方は約40m間隔で区割りされていたと見られる。他には、水田の水口と思われるものもあり、畦畔に沿っていて、主軸が畦畔と同様と思われるもので、第１号畦畔と第２号畦畔の中間と第８号畦畔の東に所在していることが確認できた。

平安時代以前の水田の状況については、明確に捉えることができなかったが、基本層序の第ⅩⅡ層が、それ以前の水田址にあたるものとも思われ、時期は不明ではあるが、水田址の存在することが確認できた。また、１点であるが寛永通宝が検出され、第Ⅴ層が近世の水田層にあたるものと思われる。

平安時代前期、千曲川流域の善光寺平の埋没水田のあり方は、上流に位置する上山田町及び当町は比較的浅く、更埴市では、厚いところで1.5mの堆積がみられるようで、下流域に厚く堆積する傾向があるようである。本遺跡での傾向を見ると、０～約20cmということになる。

今回の調査によって、古代の村上郷内の律令制における条里的地割りは、規格制をもっていたと考えられていたが、当遺跡においては、条里の端部ということもあってか、不規則になる傾向が看取されたと言える。仁和４（888）年の大洪水の後、同形態の水田を復旧したと思われるが、復旧のされ方あるいは、洪水後の水田区画については中世以降の畦畔が検出できなかったため、詳細はつかめなかったが当初の目的を果たせたと言えると思う。

報告書抄録

ふりがな	かみごみょうじょうりすいでんし
書名	上五明条里水田址
副書名	長野県埴科郡坂城町同和対策事業農業振興事業に伴う緊急発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	坂城町埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ番号	第8集
著者名	助川朋広
編集機関	坂城町教育委員会
所在地	〒389-06　長野県埴科郡坂城町大字中之条2468番地　TEL 0268-82-2069
発行年月日	1996年3月30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積㎡	調査原因
上五明(かみごみょうじょうり) 条里(すいでんし) 水田址	長野県(ながのけん)埴科郡(はにしなぐん) 坂城町(さかきまち) 大字上平(おおあざうわだいら)	1521	—	36° 27′ 02″	138° 9′ 50″	1995年11月15日～ 1995年11月29日	319.6㎡	同和対策事業農業振興事業に伴う事前調査

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
上五明条里 水田址	水田址	平安時代	水田址	須恵器僅少 貨幣（寛永通宝）	仁和4（888）年に起きたとされる千曲川の大洪水の氾濫沈殿砂泥に被覆された状態で水田址が検出された。

坂城町の埋蔵文化財発掘調査報告書

	『開畝製鉄遺跡—第1次調査報告』	1977
	『開畝製鉄遺跡—第2次調査報告』	1978
	『東裏遺跡』	1984
	『中之条遺跡群　宮上遺跡II』(概報)	1993
	『南条遺跡群　塚田遺跡』	1993
第1集	『南条遺跡群　東裏遺跡II　青木下遺跡』	1994
第2集	『町内遺跡発掘調査報告書』	1994
第3集	『町内遺跡発掘調査報告書』	1995
第4集	『南条遺跡群　塚田遺跡II』	1995
第5集	『豊饒堂遺跡・上町遺跡・寺浦遺跡・東町遺跡』	1996
第6集	『中之条遺跡群　寺浦遺跡II』	1996
第7集	『中之条遺跡群　上町遺跡II』	1996
第8集	『上五明条里水田址』	1996

発行日　1996年3月30日

編集者　坂城町教育委員会

発行者　坂城町教育委員会
〒389-06　長野県埴科郡坂城町大字中之条2,468番地
TEL　0268(82)2069

印刷者　信毎書籍印刷株式会社
〒381　長野市西和田470
TEL　026(243)2105